

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について（公表）

塩尻市教育委員会

1 趣 旨

本年5月27日(木)に実施した「令和3年度全国学力・学習状況調査」について、国及び県の調査結果の公表があり、これに基づき、本市の結果を分析しましたので、その概要をお知らせするものです。

2 調査の概要

(1) 調査の目的（文部科学省）

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年と実施した学校数・児童生徒（小中学生）の人数

対象学年	対象学校数	学校数（実施率）	実施人数
小学校第6学年	9	9（100%）	487人
中学校第3学年 （両小野中学校を含む）	6	6（100%）	531人

(3) 調査の事項及び手法

ア 児童生徒に対する調査

① 教科に関する調査（平成31年度から、知識と活用を一体的に問う調査問題）

小学校調査は、国語および算数、中学校調査は、国語および数学に関する問題

② 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査。

イ 学校に関する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査。

3 児童生徒に対する調査結果

(1) 教科に関する調査結果の全体概要

ア 小学校第6学年は、国語、算数それぞれにおいて、全国及び県平均正答率を上回る結果でした。

イ 中学校第3学年は、国語、数学それぞれにおいて、全国及び県平均正答率を上回る結果でした。

(2) 各教科の調査結果と今後の対応

ア 小学校（国語）

国語の調査結果を見ると、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」全ての領域で全国平均を上回っております。今後は、定着が低い「目的に応じて必要な情報を見付け、まとめて書く」などの表現力をさらに高めていくことが望まれます。

イ 小学校（算数）

算数の調査結果を見ると、「数と計算」「図形」「データの活用」の領域は全国平均を上回っておりますが、「測定」と「変化の関係」は全国と同様でした。今後は領域においてバランスよく力を付け、数理について自分の考えを整理し、説明する力をさらに高めていくことが望まれます。

ウ 中学校（国語）

国語の調査結果を見ると、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」全ての領域で全国平均を上回っております。定着が低い「読むこと」について、文章の中に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持てるなどの力を高めていくことが望まれます。

エ 中学校（数学）

数学の調査結果を見ると、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の全ての領域で全国平均を上回っております。バランスよく力がついているので、今後は判断の理由を数学的な表現を用いて説明したり、記述したりする力をさらに高めていくことが望まれます。

(3) 児童生徒質問紙調査結果から

ア 生活に関する観点から

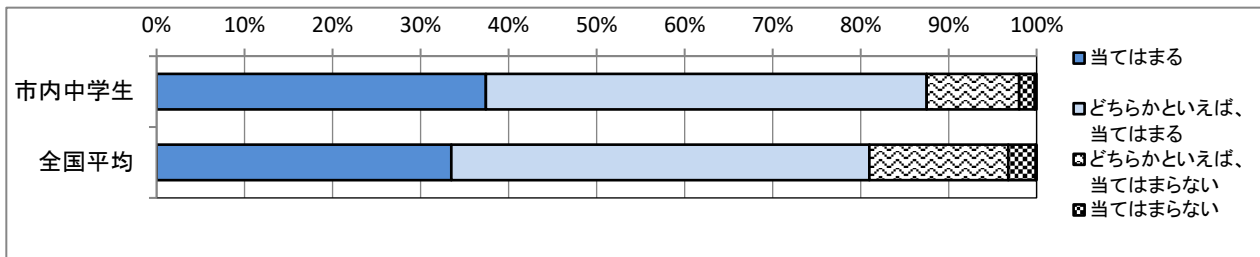
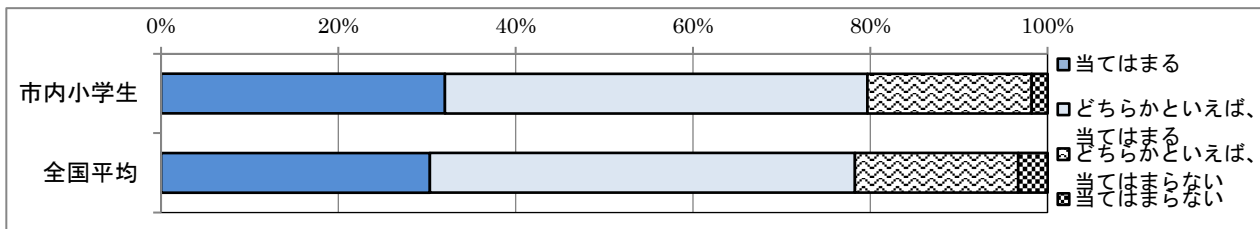
塩尻市の市民運動「早ね 早おき 朝ごはん・どくしょ」を踏まえて調査結果をみると、「朝ごはんを食べている」については、「している」「どちらかといえば、している」は小学生と中学生ともに95%。「就寝時刻」については8割、「起床時刻」については、9割以上の児童生徒がだいたい決まった時間に寝起きしており、規則正しい生活習慣が定着しています。

平日の家庭での読書時間は、「一日30分以上」で見ると、小学生37.8%（全国37.4%）、中学生31.4%（全国28.9%）であり、全国に比べ高くなっています。また「あなたの家にはどのくらい本がありますか」の質問については「500冊以上」でみると、小中の平均で20.5%（全国16.8%）と全国に比べ高く、家庭の読書に関する関心の高さが読書活動の取組みの支えになっていることが分かります。

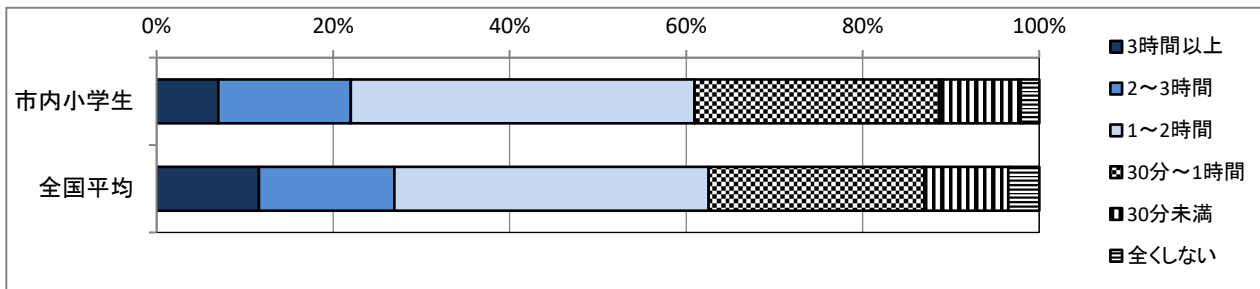
イ 学習に関する観点から

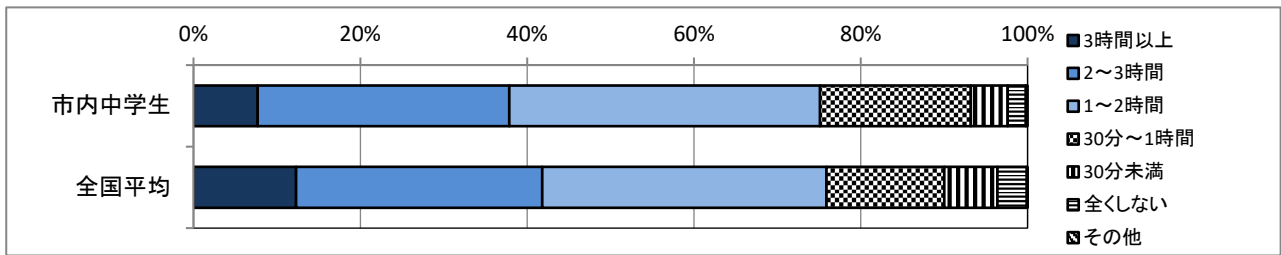
①【授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか】

質問番号 (33)



②【平日1日の家庭での学習時間】 質問番号 (18)

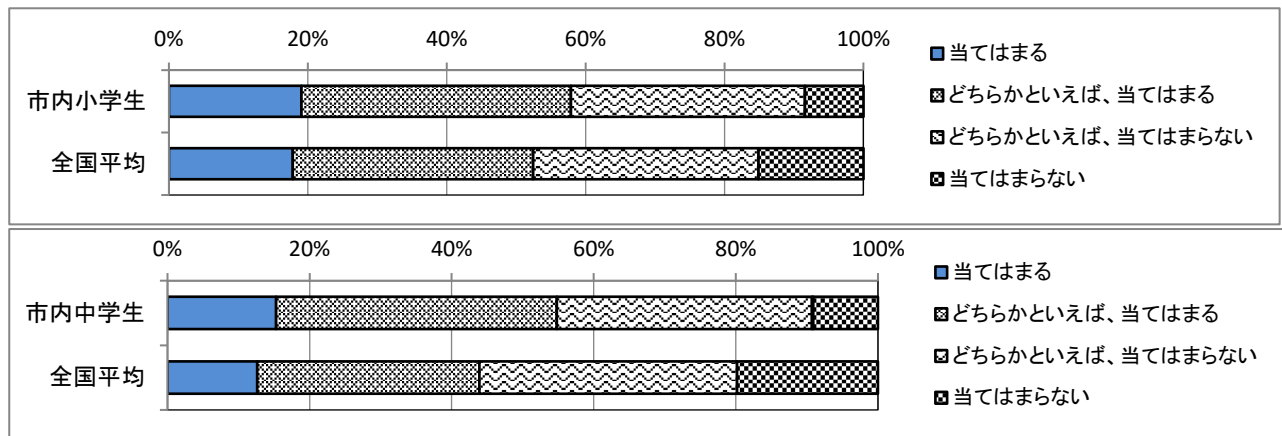




授業の課題に対する主体的な取組みについては、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」が、小学生80%（全国78%）、中学生88%（全国81%）でした。小中学校ともに全国に比べて高く、教師から示される課題や、自分たちで立てた課題に対して、自分から考えて取り組む主体的な姿勢の児童生徒が多いことが分かります。また、平日の家庭学習の時間は、小中学校ともに1時間から2時間が最も多く、家庭学習1時間以上の児童生徒は、小学生61%（全国62%）、中学生75%（全国76%）で、全国よりやや少ない傾向にあります。しかし、「家で計画を立てて学習している」児童、生徒の割合は全国よりやや高いので、引き続き家庭と協力して計画的な学習ができるように支援していきます。

ウ 地域や社会との関わりの観点から

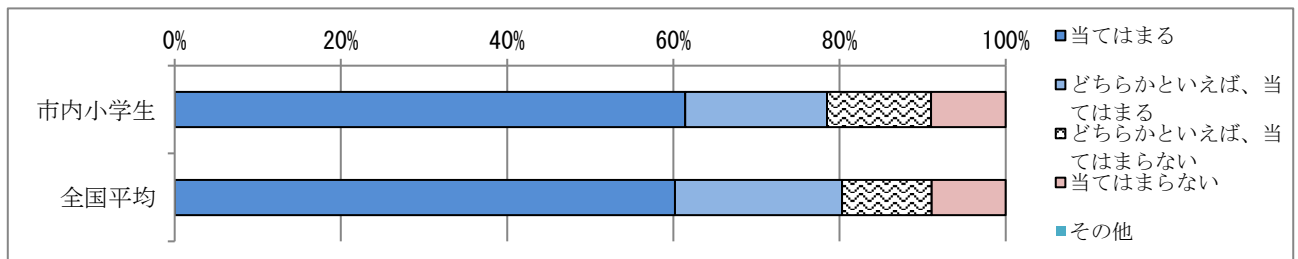
【地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか】 質問番号 (25)

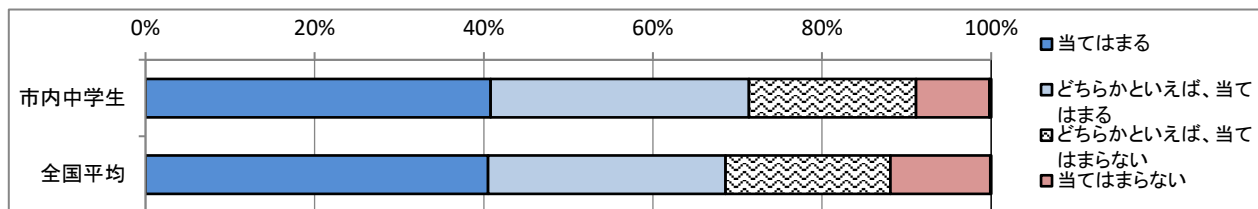


「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の質問については、「考えることがある」と答えた児童生徒の割合は、小学生19%（全国18%）、中学生15%（全国13%）と全国より高く、「地域や社会の行事に参加していますか」の質問については、「当てはまる」でみると小学生51%（全国27%）中学生30%（全国16%）と全国よりかなり高くなっています。地域や社会に関心を向け、地域の行事に積極的に参加している様子が伺えます。

エ 自分自身についての観点から

【将来の夢や希望を持っていますか】 質問番号 (7)





将来の夢や希望を持っていますかの質問については、「当てはまる」「どちらかというとはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校78%（全国80%）、中学校72%（全国69%）であり、多くの子どもたちが夢や希望を持って、前向きに生活をしていることが伺えます。しかし、「あてはまらない」と答えた児童、生徒も9%（全国10%）ほどおり、将来を見据えてのキャリア教育をさらに充実させていく必要があります。

4 学校に関する質問紙調査結果から

(1) 教科指導

☆数値（%）は、「よく行った」「どちらかといえば行った」「あまり行わなかった」「全く行わなかった」の中で「よく行った」の割合

項目	小学校	中学校
〈学校質問番号（36）〉 習得・活用及び探究の学習課程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	22.2%	0%
	全国平均 21.2%	全国平均 19.6%

ア 児童、生徒への質問で「授業では、課題解決に向けて、自分で考え取り組むことができますか」の質問に「そのとおりだと思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、小中学校ともに80%を越えており、児童生徒が課題をもって取り組む授業の実践が進んでいることが伺えます。しかし、上の結果から、学校は学びのプロセスを見通した指導方法の改善については課題があり、さらに工夫をしていく必要があります。

項目	小学校	中学校
〈学校質問番号（76）〉 特別支援教育について理解し、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫など)行いましたか	66.7%	60.0%
	全国平均 40.4%	全国平均 42.7%

イ 「授業のユニバーサル化」を掲げる学校が多く、一人ひとりの児童生徒の特性に応じた指導の工夫は、全国平均より高い結果です。特に中学校では「よく行った」の割合が増加しました。（一昨年は20%）

(2) 教育課程の編成

☆ 数値（%）は、「よく行った」の割合

項目	小学校	中学校
〈学校質問番号（19）〉 調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	66.7%	60%
	全国平均 40.4%	全国平均 42.7%
〈学校質問番号（20）〉 指導計画作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的にくみあわせていますか	66.7%	60%
	全国平均 37.4%	全国平均 26.1%

新学習指導要領を踏まえて編成した教育課程について、実施、評価して改善するなどのPDCAサイクルがどの学校でも確立しつつあります。また年間計画を整え、教育活動の中に、外部の人材や資源の活用を位置づけることも、全国平均より高い結果です。

(3) 地域との連携

☆ 数値 (%) は、「よく行った」の割合

項 目	小学校	中学校
〈学校質問番号 (83) 〉	88.9%	60%
コミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	全国平均 31.2%	全国平均 20.4%

コロナ禍の中でも、コミュニティ・スクールの仕組みを生かし、地域の人や保護者との協働による活動で「よく行った」は、全国平均よりも極めて高い結果です。(一昨年は小学校 77.8% 中学校 20%)

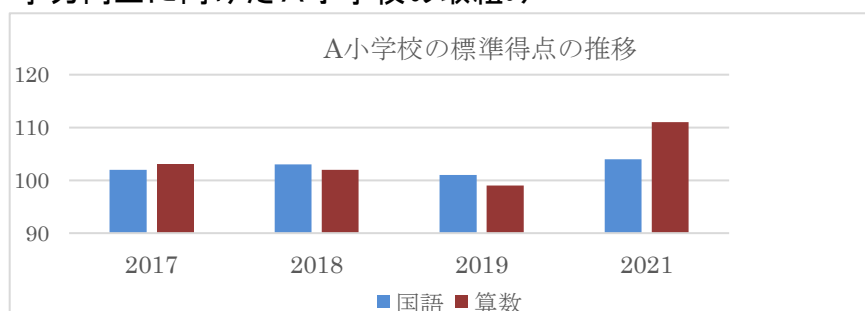
(4) コンピュータの活用

☆数値 (%) は、「活用している」「どちらかといえば活用している」「あまり活用していない」「全く活用していない」の中で、「活用している」の割合

項 目	質 問 内 容	小学校	中学校
〈学校質問番号(70~74)〉 あなたの学校では、次のようなコンピュータなどの ICT 機器を活用した取り組みを行っていますか	教職員間の連絡	77.8%	100%
		全国 41.8%	全国 43.6%
	教職員と児童、生徒とのやりとり	44.4%	0%
		全国 10.6%	全国 11.2%
	児童、生徒同士のやりとり	22.2%	0%
		全国 5.2%	全国 5.5%
	教職員と家庭との連絡	0%	20%
		全国 10.8%	全国 13%
児童、生徒が一人で活用する場面	22.2%	20%	
	全国 25.4%	全国 19.8%	

コンピュータの活用に関して、小学校では職員と子ども、子ども同士が授業の中でやりとりをし、学習効果を高めるような利用が進んでいます。一方中学校では、教職員間や保護者との連絡に使われることが多いです。タブレット端末が一人一台の時代となりましたので、教職員の研修を進め授業における有効な活用をさらに考えていきたいです。

5 学力向上に向けた A 小学校の取組み



☆標準化得点 全国平均を 100 とした時の数値 (2020 年は実施していない)

A 小学校の全国学力・学習状況調査の教科得点は上のグラフのように、2017 年以降ほぼ全国平均を上回っていますが、特に今年は大きな成果がみられました。この小学校はどのような取組みで成果を上げているのでしょうか。

(1) 個に応じた支援の充実

学校長は「どんな子にとっても、学校が楽しい場所、明日も登校したくなる場所となるようにしたい」と語っています。学校は、集団生活にうまく適応できない子、身体にハンディがある子、学習理解がゆっくりの子など多様な子が生活しています。それぞれの子の良さや課題を丁寧に把握し、職員同士で指導の方向を共有しながら、その子に応じた支援を保護者

と連携して行っています。特に特別支援教育は、学校をあげて力を注いでいるので、学校全体が温かく落ち着いた雰囲気を感じます。一人ひとりの居場所があり、安心して生活ができる学級の中で「自分は大切にされている」と感じられるからこそ、高い意欲を持って学習することができるのではないかと思います。

(2) A小学校スタンダードをもとにした毎日の実践

どの学級でも、どの教科でも「学習問題」を示し「学習の課題」をはっきりさせて、個人や共同で追究し、学んだことを「まとめ・振り返る」というA小スタンダードで授業を行うようになってきたことで、学力は向上しています。職員同士も「学習の課題がよくわからない」「まとめる時間が足りない」など授業の悩みを、皆で考え合いながら、授業改善に努めてきました。ある若い教師は「授業の中で教師がやりたいことを一方的にすることは容易だが、それでは子どもたちの力にならないのだと感じた。子どもたちが自ら考えられるような場の設定や支援をこれからも意識し質を高めながら続けたい」と記しています。2学期は、1時間の授業の学びのスタイルを子どもたち用にまとめた「A小学びのスタンダード」を作成し、子どもや保護者に配布し活用しています。全校共通の学びのスタイルを作り、それに沿ってどの学級でも主体的、対話的な授業になるように授業を改善していることが、A小学校の学力向上の肝になっていると感じます。



〈友とかかわりながらみんなで学ぶ授業〉

(3) 子どもが主体の学校活動

A小学校では1か月近く、姉妹学級で共同清掃を行っています。高学年生が低学年の子に清掃の仕方を一緒にやりながら伝えています。児童会の活動、保育園や高齢者施設との交流など、毎年継続している活動が子どもたちに浸透し、地域の方や異学年の子と関わりながら自主的に活動する姿がみられます。コロナ禍の中で、行事等が変更を余儀なくされている

現在、修学旅行の行先や運動会種目の内容も子どもが自ら考え、教師とともに決めています。教科学習だけでなく、学校の諸活動の中で、子どもの自主性を育てていくことの大切さを感じます。



〈子どもが内容を考えた組体操〉

6 市内小中学校の今後の取組み

A小学校は、「どの子にとっても楽しい学校」になるよう、個に応じた支援をいきわたらせることで、仲の良い温かな学校をつくっています。そして、全職員が学校の授業スタイルに沿って授業を改善していく中で、学力が向上してきたと考えられます。この実践に学びながら本市の「一人ひとりの育ちに、ていねいに向き合う教育」を基本理念とし、次のことを大切に取組みたいと考えています。

(1) 塩尻市の重点施策を活かした生活の基盤づくり

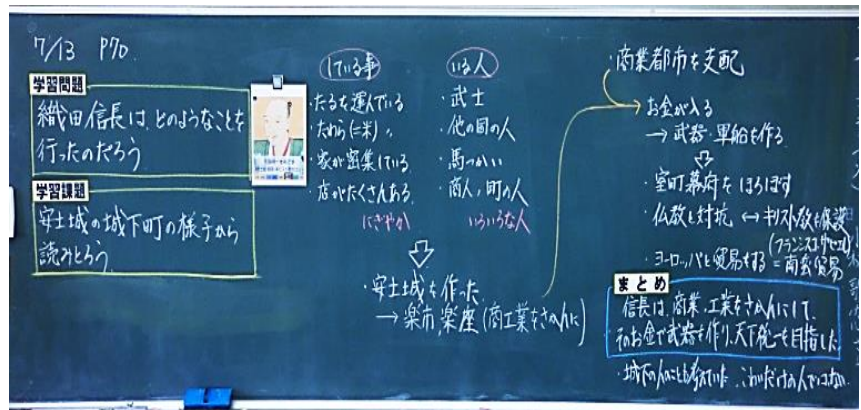
塩尻市が推進している「早ね 早おき 朝ごはん・どくしょ」市民運動に基づく様々な取り組みが行きわたり、小中学生の規則正しい生活習慣や読書の位置づいた生活となって表れています。今後も子どもたちが、家族の一員として家庭での役割を果たしたり、ネットやゲーム、学習や読書等の時間をバランスよく配分したりする、自立的な生活づくりが進むよう保護者と協力して家庭生活を充実させてまいります。

(2) 元気っ子応援事業を核とした個に応じた支援

一人ひとりに応じた育ちを応援していく「元気っ子応援事業」とともに歩んできた子どもたちが高等学校の卒業を迎えます。学校質問紙の「児童生徒の特性に応じた指導上の工夫」については、取り組みが向上してまいりました。これからも自尊感情を育み、個々が持っている力がさらに伸びるよう「元気っ子応援事業」を推進します。また、その子の特性を理解しての個別支援や担任と市独自加配講師や支援員と連携した支援を、指導の改善を図りながら継続してまいります。

(3) 教員の指導力向上と授業改善

ア A小学校の取り組みで紹介したように、授業のはじめに「目標（めあて・ねらい）を示す」活動や、授業の終わりに「学習を振り返る」活動をきちんと位置づけるなど、児童生徒が主体的に学べる授業の形を定着させます。また、昨年度末に児童、生徒に一台ずつ配布したタブレット末端



〈学習課題、追究、まとめをはっきりさせた社会の板書〉

を有効に使いながら、どの教室でも確かな学力が身につく授業が展開されるよう一層努めてまいります。

イ 教科学習の中で、基礎・基本の定着を図るとともに、「自分たちで課題を見つけ、その解決に向けて情報を集め、学級やグループで話し合いながらまとめ、記述し発表する」など、子どもの学びのプロセスに即した単元展開を考え、いろいろな人やものに関わりながら体験的に学ぶ活動を充実させてまいります。

ウ 学力向上のために、少人数学習やチームティーチング、小学校の教科担任制など効果的な指導法についても研究をしてまいります。

(4) コミュニティ・スクールを生かした体験的な学習やキャリア教育の充実

学校支援ボランティアによる学習支援や、長期休業中の学習支援も充実してきました。学校支援コーディネーターとの連携を密にし、地域の力を生かしながら、子どもたちが自ら課題を見つけ、自ら解決する力を身につけるため、「体験的な活動」や、自らの将来を考える「キャリア教育」についても更に充実させてまいります。

(5) 小中一貫した指導内容・方法の研究

来年度より、楡川小中学校が義務教育学校(小中一貫校)としてスタートします。英語が教科として小学校に位置づき、小中のつながりを考えた指導実践が進んでいます。英語に限らず、小学校と中学校で指導の隙間を生み出さないよう、中学校区毎に児童生徒理解を深め教育目標を共有しながら、9年間の系統的な指導内容・方法について研究し、一貫性のある教育の推進に努めてまいります。